

『壁の花』直木賞受賞 70 年

今官一 —わが友 太宰治

記念講演会

「なまじっかな詩よりもすぐれた美しい文章」を書く作家——小説家・高見順がこう評したように、今官一は言葉による表現の可能性を追求するモダニストとして、商業主義におもねらず磨き抜かれた文章で創作活動を行い続けた。その小説は、アイヌをはじめとするマイノリティへのまなざしや、歴史を捉え直す想像力、アイデアに富んだ構想、変幻自在でしばしばユーモアに満ちた語り口など、尽きせぬ魅力を持っている。本講演では、『壁の花』収録の「暗い砦」など数編を取り上げて、今官一の文学の多面性とその魅力について紹介したい。

■演題

「今官一の文学 —「場外れ」のモダニストの魅力—」

■講師

にへい まさと
仁平 政人 氏（東北大学大学院文学研究科教授）

プロフィール

1978 年生まれ。茨城県出身。東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了。弘前大学教育学部講師を経て、2019 年から東北大学大学院文学研究科に勤務。専門は日本近現代文学で、特に川端康成を中心とした 20 世紀前半のモダニズム文学や、寺山修司の活動などに関する研究を行う。主な著書に『川端康成の方法—二〇世紀モダニズムと「日本」言説の構成—』（東北大学出版会）、『青森の文学世界 〈北の文脈〉を読み直す』（共編著、弘前大学出版会）、『〈転生〉する川端康成』Ⅰ・Ⅱ（共編著、文学通信）などがある。



日 時 令和 8 年 8 月 22 日（土） 午後 2 時～午後 3 時 30 分

会 場 弘前市立観光館 多目的ホール

定 員 100 名（要事前申込/先着順）

入場料 無料

申 込 7 月 22 日（水）より受付。電話か文学館窓口まで。